

2026年1月27日

産業別四半期見通し調査結果 (2026年1～3月期見通し)

■長野県産業天気図

◇2025年10～12月期の現況

- 全12業種中、「薄日(順調)」が1業種、「曇り(普通)」が7業種、「小雨(低調)」が4業種となった。

◇2026年1～3月期の見通し

- 見通しは、「薄日(順調)」が1業種、「曇り(普通)」が7業種、「小雨(低調)」が4業種となった。方向感では、「横ばい」が11業種、「やや下降」が1業種となっている。

天気図記号	2025年 7～9月期現況	2025年 10～12月期現況	2026年 1～3月期見通し
晴れ(好調)	0 業種	0 業種	0 業種
薄日(順調)	1 業種	1 業種	1 業種
曇り(普通)	8 業種	7 業種	7 業種
小雨(低調)	3 業種	4 業種	4 業種
雨(不調)	0 業種	0 業種	0 業種

■1～3月期見通しのポイント



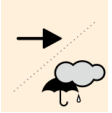


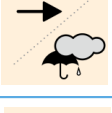


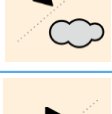


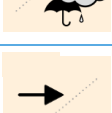


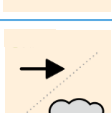


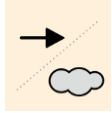


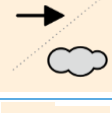






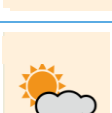
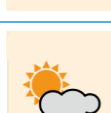
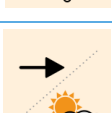






- 製造業、非製造業ともに天気マークに変化はない見通し


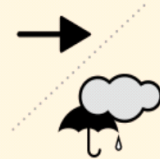
照 会 先
一般財団法人 長野経済研究所
調査部(担当: 桑井、須田)
TEL: 026-224-0501


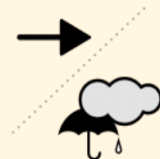



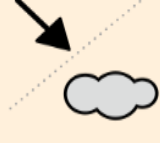
<産業別天気図一覧(12業種)>


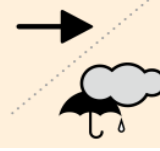
- 調査内容:業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。
- 調査期間:2025年12月中旬～26年1月上旬
- 調査回答企業:県内主要企業12業種の107社


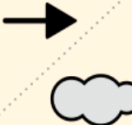
業種	前期 (25年7～9月期)	今期 (25年10～12月期)	来期 (26年1～3月期)
生産用機械			
電子部品・デバイス			
自動車部品			
飲料製造			
食料品製造			
機械器具卸			
大型小売			
自動車販売			
公共工事			
民間工事			
貨物			
観光			


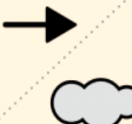
生産用機械	投資への慎重姿勢が続き受注は低調
<p>● 現況</p> 	<p>生産用機械の受注は総じて低調だった。自動車関連では、バッテリー式電気自動車(BEV)などの伸び悩みから設備投資の抑制が続いた。IT関連では、人工知能(AI)・データセンター向けは旺盛な半導体需要から増加したものの、それ以外の用途向けの受注は低水準で、総じて低調だった。今後も投資への慎重姿勢が続き、受注は低調となる見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 工作機械の受注は、国内では投資抑制が続く見通し。一方海外では、中国向けは政府の設備更新補助が下支えし底堅く、また米国向けも堅調とみられる。 • 半導体製造装置の受注は、AI・データセンター向けが引き続き堅調とみられる一方、産業用や車載用などの半導体需要は持ち直しに至らず、総じて低調が続く見通し。



電子部品・デバイス	AI関連は好調だが、車載関連向けを中心に受注は低調な見込み
<p>● 現況</p> 	<p>IT関連向けは、人工知能(AI)サーバー向けの部品需要がみられたものの、PC・スマートフォン向けは中国景気の減速や中国メーカーとの競合激化から低調だった。車載用は、バッテリー式電気自動車(BEV)需要の減少から在庫調整の動きが広がり弱含んだ。一般機械などの産業用は、設備投資の慎重化から受注が伸び悩んだ。今後も、低調な見通しにある中、中国によるレアアース等の輸出規制の報道を受け、先行き不透明感が強まっている。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • IT関連は、AIサーバー向けの需要は増加するものの、PC・スマートフォン向けは引き続き弱く、総じて低調な見込み。車載用も、BEV需要の停滞等から弱い動きが続くとみられる。 • 産業用は、設備投資の伸び悩みから低調な見通し。


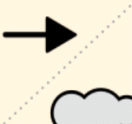
自動車部品	国内・北米向けを中心に底堅い見通しだが、先行き不透明感が強まる
<p>● 現況</p> 	<p>北米向けが堅調なほか、国内向けも新型車の投入効果を背景に底堅い動きが続いており、自動車部品の受注は底堅かった。今後も底堅い受注が見込まれるが、半導体不足や中国によるレアアース等の輸出規制の報道を受け、先行き不透明感が強まっている。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 国内向けは新型車を中心に底堅い需要が見込まれるほか、北米向けも米国の通商政策の影響がある下でも日系完成車メーカーの販売は堅調なことから、受注は底堅い見通し。 • 中国向けは、現地メーカーとの競合激化を背景に日系完成車メーカーの販売が低迷しており、受注は低調な見通し。東南アジア向けも、中国メーカーとの競合激化から、受注は低調な見込み。


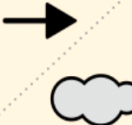
飲料製造	製品価格が高値圏で推移し、需要は低調な見通し
<p>● 現況</p> 	<p>原材料を中心に製造コストが上昇する中、製品価格の引き上げが進んだことで消費者の節約意識が高まり、需要は弱含んだ。今後も製品価格は高値圏で推移することが予想されるため、嗜好品を中心に消費者の選別が進むとみられ、需要は低調となる見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 果汁・野菜ジュースなどの清涼飲料は、リンゴなどの国産原料価格が天候不順による収量減で上昇し、製品価格が高止まるとみられ、需要は低調な見込み。 • 清酒・ワインなどのアルコール飲料は、製品価格が高値圏で推移することが予想され、需要の弱さが続く見通し。特に清酒は、主食用米の価格上昇に伴う酒造好適米の価格急騰を背景に、製品価格の引き上げが見込まれ、低調な需要が続く見込み。


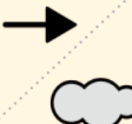
食料品製造	底堅い需要が続き、売り上げは安定推移を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>家庭用は、調理の手間を省ける製品や健康志向に配慮した製品を中心に需要は底堅かった。また、業務用も外食向けを中心に需要は堅調だった。今後も総じて底堅い需要が予想され、売り上げは安定的に推移する見込み。また、原材料やエネルギーなど製造コストの上昇が一服し、利益は堅調に推移する見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・味噌などの調味料は、減塩や無添加などの製品が需要を牽引するほか、原材料価格が落ち着いて推移するとみられ、利益は堅調に推移する見通し。 ・乾燥食品・油揚げなどは、調理が簡便な製品を中心に需要は底堅い見通し。 ・ソースなどは、外食やベーカリーなど業務用の需要が底堅く推移する見通し。


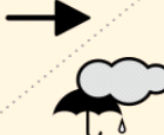
機械器具卸	機械需要は低水準が続くが、建設・電設資材需要は増加する見通し
<p>● 現況</p> 	<p>機械需要は、自動車関連やIT関連を中心に設備投資を控える動きが続き、総じて低調だった。一方、建設・電設資材の需要は民間の建築工事を中心に堅調だった。今後も、機械需要は低水準が続く一方、建設・電設資材の需要は増加するとみられる。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・工作機械などの機械需要や制御機器などのFA機器の需要は、設備投資の抑制姿勢が続き低調な見通し。切削用工具類や金属板などの消耗品受注は、製造業の生産活動の弱さから低水準が続くとみられる。 ・建設・電設資材の取扱量は、民間の建物工事中心に堅調が見込まれるほか、蛍光灯の段階的な製造・輸出入禁止に伴うLED照明器具への切り替えが進み、増加する見通し。


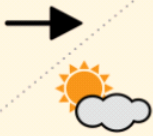
大型小売	買い上げ点数の減少が続くも、販売価格の引き上げ等から売り上げは堅調な見通し
<p>● 現況</p> 	<p>催事やフロア改装による集客効果に加え、食料品を中心とする販売価格の引き上げもあり、売り上げは増加した。ただ、物価高により消費者の節約志向が一段と強まり、買い上げ点数の減少が続いている。今後も、人件費や光熱費の増加などから利益は厳しい状況が続くが、販売価格への転嫁が進むことにより、売り上げは堅調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・百貨店は、食料品の値上がりに伴う節約意識の高まりから、衣料品や時計・宝飾品等は伸び悩みが見込まれるが、催事や改装による集客効果から、売り上げは堅調な見通し。 ・スーパーは、消費者の節約志向により買い上げ点数が減少するものの、販売価格の引き上げが続くと見込まれることから、食料品を中心に売り上げは堅調な見通し。

自動車販売	人気車種の新型モデルの投入により、販売は底堅い見込み
<p>● 現況</p> 	<p>新車販売は、物価上昇による家計の慎重姿勢や新型車の投入があまりなかったことにより、販売台数は前年を下回った。一方、中古車や輸入車販売は底堅く推移した。今後は新型車投入による買い替え需要の増加が見込まれ、総じて堅調に推移する見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・新車販売は、年度末にかけて人気車種のモデルチェンジがあり、買い替え需要の増加に伴い、緩やかに持ち直す見込み。 ・中古車販売は、比較的新しい年式の人気車種を中心に引き合いが強まっており、底堅い見通し。 ・輸入車販売は、SUVタイプを中心に新型車への関心が高まっており、底堅く推移する見込み。

公共工事	河川・砂防工事や道路の維持修繕工事などで底堅い工事量を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>国土強靱化計画に伴う土木工事や公共施設の改修工事などにより、安定した工事量となった。今後も、三遠南信自動車道の整備に関連する工事や、防災・減災を目的とする河川・砂防工事などが見込まれ、底堅い工事量となる見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・国では、防災・減災を目的とする河川・砂防工事のほか、三遠南信自動車道関連の道路工事などが見込まれ、底堅い工事量が続く見通し。 ・県では、治水・治山工事のほか、道路や橋梁の維持修繕工事などが見込まれ、安定した工事量となる見通し。 ・市町村では、公共施設の整備や道路工事などを中心に、堅調な工事量を見込む。

民間工事	製造業の建設投資やリゾート開発を中心に安定した工事量を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>民間企業の建設投資は、製造業の設備投資や白馬・軽井沢などでのリゾート開発を中心に、堅調な工事量となった。新築住宅は、省エネ基準変更に伴う反動減の影響は薄れつつあるものの、資材価格や人件費の高騰など建築コストの上昇が需要を下押しし、着工戸数は低調に推移した。今後も建築コストは上昇する見通しだが、製造業の建設投資などを中心に安定した工事量を見込む。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業の建設投資は、工場建設やリゾート開発を中心に堅調な見通し。 ・住宅関連は、賃貸・分譲住宅需要は堅調だが、建築コスト高による注文住宅の受注減少から、着工戸数は低調な見込み。

貨物	工業製品の貨物量は低調、食品・雑貨類の荷動きも弱含む
<p>● 現況</p> 	<p>工業製品は、中国向けを中心に輸出関連の荷動きが低調だった。食品・雑貨類も物価高の影響で販売数量が振るわず、荷動きは力強さを欠いた。コスト面では、政府の補助や原油価格の低下を背景に燃料費は減少傾向にあったが、人件費や車両費・車両整備費などが上昇し、利益を圧迫した。今後、工業製品の荷動きは海外向けが引き続き弱く、食品・雑貨類含め貨物量は総じて低調な推移を見込む。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業製品は、自動車部品の荷動きに底堅さがみられるものの、生産用機械や電子部品は中国向けを中心に需要が鈍く、関連部材も含め総じて貨物量は低調な見通し。 ・食品や雑貨類は、物価高の影響などが続き荷動きは弱含むとみられる。

観光	スキー利用を中心とした旺盛なインバウンド需要を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>秋の行楽シーズンは、国内旅行者による観光需要を中心に、旅客・宿泊とも利用は順調だった。中国政府による渡航自粛の呼びかけや熊の出没懸念による影響に伴い、一部で利用者数の減少が見られたが、影響は限定的だった。今後は、スキー場周辺を中心に旺盛なインバウンド需要が見込まれ、利用者は増加する見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅客は、スキー場への来訪者増加に伴い、バスやタクシーの利用増加が見込まれる。また、ガソリンや軽油の暫定税率廃止等による燃料価格低下により、利益は改善する見通し。 ・宿泊施設は、スキー場周辺地域を中心にインバウンド需要の増加が見込まれるほか、食材を中心としたコスト上昇分の価格転嫁が進むとみられ、収益は改善する見通し。